

## 科学者委員会（第24期・第8回）議事要旨

- 1 日時 平成30年6月18日（月）10時00分～13時00分
- 2 場所 日本学術会議 大会議室（2階）
- 3 出席者  
三成美保委員長、橋本伸也幹事、米田雅子幹事  
（第一部）岡崎哲二委員、佐藤岩夫委員  
（第二部）大杉立委員、名越澄子委員  
（第三部）藤井孝藏委員、藤井良一委員（ビデオ出席）、  
渡辺芳人委員（ビデオ出席）  
（その他）岸村顕広委員
- 4 配布資料  
資料1-1 第3回議事要旨案  
資料1-2 第5回議事要旨案  
資料2-1 「軍事的安全保障研究に関する声明」についてのアンケート  
第二次集計結果報告  
資料2-2 9月22日開催学術フォーラムについて  
資料2-3 HPについて  
資料3 「科学者」について  
資料4-1 提言「我が国の研究評価システムの在り方～研究者を育成・支援  
する評価システムへの転換～」(平成24年(2012年)10月26日  
日本学術会議 研究にかかわる「評価システム」の在り方検討委員会)  
資料4-2 文部科学省における研究及び開発に関する評価指針  
平成14年6月20日(最終改定 平成29年4月1日)(抜粋)  
資料4-3 研究評価に関するサンフランシスコ宣言  
資料4-4 研究計量に関するライデン声明について  
資料4-5 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準に  
ついて(解説)  
資料5 科学者委員会運営要綱改正(案)  
資料6 日本学術会議協力学術研究団体規程改正(案)  
資料7 協力学術研究団体の指定に係る審査資料  
資料8-1～5 分科会報告資料  
資料9-1 東北地区会議等主催公開シンポジウムの開催について  
資料9-2 近畿地区会議主催公開シンポジウムの開催について  
資料9-3 公開シンポジウム「ハラスメントを鏡に、日本社会を検証する  
——なぜまっとうな議論ができないのか？」の開催について  
資料9-4 「女子中高生夏の学校 2018～科学・技術・人との出会い～」の  
後援について シンポジウム等資料

## 5 議題

### (1) 前回議事要旨案等について

- ・逐語の議事録を作成するにあたり、発言者については匿名としたものを公表し、発言者を記載した議事録については事務局において保管することとなった。
- ・議事録の保存期間については、特定部分のみ残していくのか、議事録全体を残していくのか、等を今後の検討課題とした。

- ・日本学術会議の庁舎の地下には書庫があり、歴史的な資料等も保存されている。これらを今後どのように利用・保存していくか、という問題もある。日本学術会議として幅広く資料保存について考えていく必要がある。

科研費を使用して書庫の調査を行っているチームもあるため、協力しながら資料の保存について検討する必要があると考えている。

- ・第3回及び第5回の議事要旨案について、承認された。

### (2) 「軍事的安全保障研究に関する声明」についてのアンケート結果、9月22日開催学術フォーラム及びHPへの掲載等について

佐藤委員より、第二次集計結果報告をもとに説明がなされた。

(三成委員長) 佐藤委員からの報告について、質疑を始めたいと思うが、その前に日本学術会議の声明およびアンケート結果について、批判的な立場からの意見及び署名が来ているので回覧させていただく。最終報告書について、8月に予定されている会議で決めることにする。また、学術フォーラムの結果については、学術の動向への公表を考え、準備している。佐藤委員からの報告について、質疑はいかがか。

(A委員) 「安全保障技術研究推進制度」に応募した大学でどのように声明を受け止めたのかが、この資料では読み取れない。どういった大学が応募しているのか、分かるようにした形にする方が良いのではないか。

(佐藤委員) アンケートの回答校の中には応募し採択された大学がある。そのような大学においても、声明の趣旨には基本的に賛成であり、かつ採択された研究の経験を踏まえて、現在検討中であるとの意見だった。ここでも声明を真摯に受け止めてもらえているという印象を受けた。また、「安全保障技術研究推進制度」に応募した大学ではどのように受け止めているのか、系統的にクロス集計をして報告する。

(B委員) 防衛省等の“等”は何を意味しているか。防衛大は含まれないということか。

(佐藤委員) 防衛省又は防衛装備庁という意味でアンケートでは表現している。防衛大は防衛省の所管のため含まれるという形であり、防衛省所管の組織は全体として含んでいるという考えである。

(B委員) それはアンケート回答者にとっても、同じ認識ということによろしいか。

(佐藤委員) 特に注記はつけなかったが、除外するとは明示していないため、そのような理解でいると認識している。

(B委員) 誤解がなければよい。先ほどの報告から、全般的に佐藤委員の説明で、想像に近いような結果が出たという印象を受けた。資料の最後のページの4点目に、「外国の軍隊等の資金提供」という表現があるが、日本の防衛省と外国の軍隊では少し色彩が違うため、気を付けて理解しなければならない。例えば、アメリカの Naval Research Laboratory (NRL) は、エジソンがいたように基礎研究の部門が非常に充実しており、一つにくくれない。その点は考えながら、結果を理解しなければならない。また、30年前になるが、Office of Naval Research の依頼で、日本のスパコンの調査をしたことがある。これも全く純粋に軍事研究ではなかった。そういうことも含まれるということも頭の片隅においてまとめていただきたい。

(佐藤委員) 声明では、「外国の軍隊等の資金提供」について触れなかった。私としても、現時点でこの委員会の課題ではないと考える。ここで挙げたのは、回答機関の回答中あるいは規則内において触れている例があるという扱いとする予定である。

(三成委員長) マスコミ報道では、特に NHK において、3割という一部の情報を切り取られた報道がなされてしまったが、学術フォーラムでは丁寧な説明をする。総会でも丁寧に説明したが、情報の切り取られ方が偏っていたように思う。

(C委員) 学術フォーラムと関連するが、今後はどうするのか。アンケート結果を集約しただけでは終われない。そういうときに、どういう立場でフォローアップしていくのか。違和感又は期待があるというのはそういうこと。そういうことに対応して、どちらにしても何か日本学術会議で言ってほしいことがあると思う。学術フォーラムでは、そこまで踏み込んだ形にならないだろうが、その先の話として問われていることがあるはずである。対応を、この委員会でやるのか、別途委員会を立てるのか、頭の整理ができていないが、そういうことを含めて、今の段階から考える必要がある。

(佐藤委員) 資料を提示してからの時間の余裕がなかったため、その他気づきの点がある場合は、この会議の後でも、事務局を通じて、意見等をご連絡いただきたい。

(三成委員長) 改めて連絡し、気づきの点をいただきたい。

佐藤委員より、学術フォーラムプログラム(案)をもとに説明がなされた。

(三成委員長) この資料は、どのような基準で大学にお願いするか、とてもいいバランスで選定の方向性が示されているという印象を受けた。簡単に趣旨を説明すると、会長挨拶で15分間と長めにとっているため、そこで京都大学の話の説明していただけるかは今後の調整次第となる。次に、第23期安全保障と学術に関する検討委員会委員長の杉田先生にアンケートの意義を含めて、23期から24期への課題の継続という観点から話をいただき、そして、佐藤委員から30分

でアンケート結果を説明いただく。その後、7大学程度、法人を含めるかは今後の検討課題だが、話をいただき、積極的な取り組みをしている学協会2つからも話を10分ほどいただく。日本天文学会は、総会でも冊子を紹介した通り、非常に積極的な取り組みをしている。日本物理学会も同様である。そして、その後の討論では、佐藤先生をパネリストにせず、一番事情を知っている佐藤委員にファシリテーターをしてもらい、パネリストから意見を引き出していただくのがふさわしいと考えた。パネリストは冒頭で報告をいただく山極先生と杉田先生、学協会の代表を検討しているが、合計6名程度で1時間半ほど討論いただく。最後に、閉会挨拶には、全体的に男性が多くなりそうなので、前副会長の井野瀬先生にお願いしてはどうか。まだ打診はしていない。総合司会は武田副委員長にお願いする。詳細は十分に決まってないが、この方向性でプログラムを承認いただき、すぐに依頼をかけたい。具体的な人選については、科学者委員会四役と佐藤委員に一任していただきたいが、何か意見や提案はあるか。

(D委員) 閉会挨拶を井野瀬先生にということだが、第24期の委員会が責任をもって行う会合であることを考えると、連携会員である井野瀬先生にお願いするのは、いくら前期において中心的に活動された前副会長だったとしても、今回とは別件と考えるべきで避けた方がよい。

(E委員) 可能かどうか分からないが、防衛大等の研究者をパネリスト等で呼ぶことはできないか。私自身、防衛医大の方と科研費の枠で研究したことがあるが、彼らがどのあたりで線引きして考えているのか、聞いてみるのも面白いと思う。

(三成委員長) 検討する。防衛系の研究者又は省庁関係者等、報告ないしパネリストで参加いただくことを検討していただくということで。

(D委員) 職務上の権利義務の関係で、呼ぶことが可能なのか配慮する必要がある。調べた上で可能であれば、来ていただくこともあるかもしれないが。

(C委員) ミッションとして安全保障を謳っているJAXA等は呼べないだろうか。そういう機関は我々の議論の外側にいる気がする。ミッションに従っているまでと言われたら元も子もないが、規模も予算も大きい組織であり、そういうところを抜きにして語ることはできないのではないか。

(佐藤委員) 研究機関によって、組織的特性が違うのだろうと推測する。フォーラム自体、多様な意見を聞くものであるため、声明のインパクトをフォローアップするという現時点での科学者委員会のミッションに沿うものだと考える。注意すべき点は、橋本委員の仰る通り、組織の中における研究者の立場に配慮する必要があること、研究機関が最終的に決めればよいが、国立研究開発法人等に籍を置いた身で自由に意見を言うことができるのか。また、個人に依頼をする場合は慎重な配慮が必要だが、組織に依頼する場合は組織の判断だと考える。少なくとも、ただいまの意見は検討させていただく。また、1点付け加えると、声明では組織の中で研究者各人が自由な研究活動ができるのか考慮して、組織の中でも自由な研究活動できるような組織を念頭において、今回アンケートを発出した。

(三成委員長) 検討課題として一部引き取りながら、内容についてはこの委員会

の役員4名と佐藤先生で調整し、確定した段階でメールで連絡する。また、その段階で広報も同時に始めるので協力をお願いする。

(B委員) JAXA に長年在籍していたため、組織として誰かに参加してもらうことを交渉することはできる。また、JAXA は宇宙科学研究所を抱えていて、もともと東大の附置研究所で、JAXA になったときから非常にこの問題については議論しているため、宇宙科学研究所所長に出てきてもらう可能性がある。それもできない場合は、宇宙政策委員に中須賀先生等の大学の先生がいるので、ご意見を伺うのがいいのではないか。

(三成委員長) その点については、後ほど相談させていただきたい。

(B委員) あともう一つ、学協会をよく取り組んでいるのは、日本天文学会と日本物理学会というのはその通りだが、工学系がないのが気になる。工学研究は防衛省では多いため、可能かどうか分からないが、検討いただきたい。

(三成委員長) アンケートを学協会にもしたいと考えているが、今回のアンケートは大学等が限定のため、学協会の情報が十分に網羅されていない。今回の2つの学協会は情報提供という形で関わっていただこうと思う。学協会の全部を見渡しての紹介ではないことを説明する。JAXA については相談しながら、どういう形で対応できるのか検討させていただく。回覧資料は参考資料の山極会長宛の防衛研究を求める自由市民の会の挨拶文とともに来た署名。こうした意見が届いているが、これは回答を求められているというわけではない。例えば学術フォーラムの時に、関係者が来て意見を出すということも考えられる。その時には対応をしてもらうことになるため、情報の共有をさせていただいた。そして、安全保障の関係では最後にホームページの件がある。軍事的安全保障研究については、マスコミや市民からの関心が非常に高いことから、独自ページを作る。今後科学者委員会のページを充実させていこうと考えており、科学者委員会の活動の一つとして軍事的安全保障研究やゲノムの取り組みを紹介するページを作り、独自ページへリンクしたいと考えている。資料は完成版ではないが、トップに概要を書き、新しい記事を上に上げていくという形式にしようとしている。新しい記事が今、アンケートと第一次集計結果が既に科学者委員会ページに公表されているが、そのページの記事は残したうえで、独自ページに安全保障関連の情報を集約するという仕立てにしようと考えている。インパクトレポート、報告、声明の全文、過去の声明2つを全文又は抜粋、そして、第23期の検討委員会資料は膨大になっているため、検討委員会へのリンクを載せている。今後、科学者委員会は5つの分科会で活発な活動が行われているため、それぞれの分科会の活動の内容について紹介することも含めて協力いただきたい。それぞれの分科会の委員長とご相談させていただきたい。今日のところは、科学者委員会のホームページの充実化と、軍事的安全保障研究の独自ページの作成及び科学者委員会ホームページ内で見える化をすることについて承認いただきたい。

(佐藤委員) 配列の順序だが、新しいものから古いものへという流れは一般的にはあり得るが、この問題については、現時点での日本学術会議としての公式の到達点は声明と報告であり、それがどんどん下に行ってしまうのは、あたかもその

後の議論が声明と報告を上書きしていくような誤解を与えかねない。少なくとも、声明と報告はトップに据え置くべき。

(三成委員長) 指摘を考慮すると、トップから概要、声明、報告、その後はアンケート、インパクトレポート等の見せ方は考えていく。ホームページを作ることに 대해서는承認いただいたということで。どのような形にしたかは、メールで報告する。

### (3) 大学改革について

三成委員長から説明がなされた。

#### 説明概要

- ・大学改革について、基本的には学術体制分科会で議論されているが、科学者委員会でも情報を共有しながら取組を進めていきたい。会長からは、私立大学を含めた総合的な大学改革のあり方について議論をしてもらいたいとの話があったところである。

#### 意見交換

- ・色々な分科会で同時並行で議論が進んでいる状況であり、異なる方向を向いているのは良くないので、舵取り・調整が必要である。  
→基本的には学術体制分科会で進めてもらいたいと考えている。情報共有の方法については、会長や渡辺副会長と相談したい。科学者委員会では、分科会報告に加え、大学改革については報告の時間を設けて情報共有をしていきたい。

### (4) 「科学者」について

三成委員長から資料3に沿って説明がなされた。

#### 説明概要

- ・特任連携会員の科学者性について確認しておきたい、という意味での申合せ案を作成した。今期、特任連携会員についての議論の中で話題となった点である。科学者委員会で議論の上、9月までに方向性をだし、会長・副会長とも相談の上、幹事会にはかるというスケジュールを想定している。

#### 意見交換

- ・科学者・研究者とは何かということについては、かなり慎重な議論が必要である。このようなことを考えることが必要であることは理解するが、今緊急性を持って申し合わせる必要があるのか？
- ・「科学者」という言葉自体が時代遅れではないか。根本的な再検討が必要ではないか？  
→緊急性はないと考えるが、早めに対応した方が良いのではと考え、9月まで、というスケジュールを出したところである。本来的に科学者について考え直す場合は、非常に大きな議論となり、簡単に決めることはできないと考えている。その点に取り組むかどうかについては、検討が必要と考えている。
- ・特任連携会員の範囲については、みだりに拡大すべきでないという議論と、

時代にあわせて拡大していくべきという議論がせめぎあっている。しかし、ルールのない状態が長く続くことは望ましくない。

- ・意見を整理した上で、会長・副会長とも相談し、改めて8月予定の委員会で議論することとしたい。

#### (5) 研究評価の問題について

三成委員長から資料4に沿って説明がなされた。

##### 説明概要

- ・それぞれの分野での議論は尊重しつつ、大きな枠組みでの議論が必要である。2012年の提言を引き継ぐ形で今期検討したい。その枠組みを示すために、科学者委員会の中にワーキンググループを作成し、分野別委員会と協力しながら検討していきたい。

##### 意見交換

- ・研究者個人に特化する形での議論をなぜしなければいけないのか。
- ・自然科学の分野から見ると、あえて今規程を作らなければいけない必要性が感じられない。科学者委員会として全分野についてまとめる必要があるのか？分野別に作る意味があるのか？  
→分野に応じて必要であればまとめる程度でよく、必要か否か自体を議論いただく必要があると考えている。
- ・新しい物を作る/従来のものを整理する/全く必要ない、という選択肢があると思うが、わかりやすく言語化することはしておいた方がよいのではないかと考える。
- ・評価システムをめぐってどのような論点が課題としてあるのか、を整理するワーキンググループはあってもよいのではないか。色々なところで議論を繰り返すことになりかねないので、整理は必要である。  
→色々な論点があるので、整理のためのワーキンググループを設置したい。構成については役員で検討したい。

#### (6) 科学者委員会運営要綱の改正について

三成委員長及び米田幹事から資料5に沿って説明がなされた。

(学協会連携分科会の下に学協会法人化問題小委員会を設置する件)

出席委員からの異議はなかった。

#### (7) 日本学術会議協力学術研究団体規程の改正について

三成委員長から資料6に沿って説明がなされた。

(協力学術研究団体の指定申請書に、「女性比率〇%」の項目を追加する件)

出席委員からの異議はなかった。

#### (8) 協力学術研究団体の指定について

三成委員長及び事務局から資料7に沿って説明がなされた。

(新規に指定申請があった協力学術研究団体の件)

- ・部審査において適又は保留とされている案件については、出席委員からの異議はなかった。
- ・部審査において不適とされた案件については、審査員と引き続きやりとりを行い、審査を継続することとされた。

## (9) 各分科会からの報告

(男女共同参画分科会)

第2回を開催。

- ・第二部・第三部にもジェンダー系の分科会が設置又は設置の予定である。
- ・男女共同参画に関するページを学術会議のHPに作成予定。
- ・男女共同参画に関する大規模アンケートを実施予定。  
(他のアンケートとの関係も検討する)

(学術体制分科会)

第2回・第3回を開催。

- ・内閣府の担当官から大学改革に関するヒアリングを実施。
- ・山極会長からもヒアリングを実施。
- ・次回は9月に開催予定。ドイツの学術政策に関するヒアリング及びCSTIの議員からのヒアリングを予定している。

(学協会連携分科会)

第2回を開催。

- ・理学工学系学協会連携協議会の意見シートについての報告及び質疑が行われた。
- ・ジャーナル問題についても今後検討していく。
- ・アンケートについても検討の予定である。
- ・指定団体制度については、活動実績のない学会の扱いについて検討課題であることが議論された。

(研究計画・研究資金検討分科会)

第3回を開催。

- ・5～6月にかけて実施したアンケートには100件ほどの回答があった。
- ・アンケート回答情報の整理を行い、分科会及び委員会に報告したい。

(学術と教育分科会)

第2回を開催。

- ・分科会で取り上げる課題について整理した。
- ・第2回では1990年以降の高等教育政策の変容について報告があった。

- ・次回（９月予定）では、科学技術政策について報告してもらう予定。

（ゲノム編集技術に関する分科会）

- ・５月の幹事会で設置が承認された。
- ・今後、武田副委員長を世話人として活動を開始していく。

（１０）その他

資料９－１～９－４にあるシンポジウムの開催及び後援について、出席委員からの異議はなかった。

なお、（６）以降の議事においては、定足数の都合により懇談会へと変更となったため、改めてメール審議にて承認を得ることとなった。

次回の会議開催は８月２２日（水）午前中を予定している。

以上